JAXA の梶井執行役が資料 3-3 (UNESCAP) を 8 分程で説明した後、15 分近い質疑応答が行われた。(青江委員が、カナダやドイツなどに呼びかけ、画像データを提供する協力国を拡大する努力を盛んに要求した。国家安全保障に関わる技術であり画像データなので、安易に提供しないのが世界の常識で、日本だけが良い事は良いと頑張っているのである。JAXA は外交の難しさを学ぶ機会を持ったのであるが、更に精進して頂きたいものである。)

青江：今、センチネルアジアでアベイラブルなプロバイダになってる衛星って云うのは、「だいち」の外に幾つ？

JAXA 梶井：「だいち」とですね、インドの ISRO の IRS でしたっけ、此れは何機？（とサポート員に）

青江：何かありましたね。それから他に？[1]

JAXA 梶井：他は今、此処の 6 頁の図に有りますように、タイの GISTDA がですね、今、テウスと云うのの打上げを準備しているんですが、此れは中々、一寸ロケットの都合で打上げが延び延びになってるんですけど、此れが上がったらデータで参加してくれると。

青江：アルカテルか何かの衛星ですね。

JAXA 梶井：はい。

青江：其れで三つ目？

JAXA 梶井：はい。

青江：もう少し増やせないですかね。

JAXA 梶井：あのー、まあ、韓国何かの方にも、韓国は一時コンプサット 1 が生きてる時には其れで参加しますと云うとこに迄来たんですけども、不幸な事にコンプサットが終わってしまいましたので、今、コンプサット 2 の提供について議論を進めてるとこです。

青江：カナダとか、ドイツとか、其の辺も、良いですよと言ってくれそうな感じがしますよね。

JAXA 梶井：あの、まあ、センチネルアジア以外に災害チャーターと云う枠組が御座いますので、此処は国際的な協力と云う事で、まあ、日本も参加してますので。

青江：それがダブったってどうっちゅ事ないじゃないかと。カケル（？）方の問題なんだから。

JAXA 梶井：唯、センチネルアジアって云うのは、矢張りインターネットのネットワークを或る程度共有できる範囲と云うのが、余りグローバルにいきなりは展開出来ない訳ですから。

青江：プロバイドする側からすればですね、災害チャーターにも勿論出しますよと、此方にも出しますよと、こんな手間が 2 重になる事でも何でも無いんだから、大した手間じゃないですね。だから、ドンドン、出す方はドンドン出して貰えば良いんではないかと言いましょうか、参加して貰えば良いんじゃないかと。何でそんな事ができないの。

---

[1] 何故、そんなに急ぐのか。「日本が折角良い事をやってるのだから、その他の国々も参加させれば良い。簡単の事ではないか。」と言いたいのであろう。しかし、衛星画像を提供すると云う事は、大変微妙な問題であると考えているのが日本以外の各国であろう。

JAXA 梶井：基本的にそう云う構造になって居りまして、JAXA にしてもセンチネルアジア経由でデータも提供しますし、災害チャーターで要請された場合には其のチャンネルで提供すると云う様な形で運用して居ります。

青江：家、あの、所謂、恒常的に、例えばカナダの何とかと云う、他の衛星にせよ、は、もうあのー、災害チャーターにも勿論頼まれたら出しますよと、と同時にセンチネルアジアと云う枠組の中にも出しますよと云う事をキチンとコミットメントして貰えば良いんじゃないですかと。

JAXA 梶井：委員が仰ってるのは、例えばアジア太平洋の国以外の衛星ですね。カナダとかドイツですとかそう云う所もと云う事ですか。

青江：そう。

JAXA 梶井：まあ、一寸其処は。

青江：と云うのはね、非常に見た目の問題だけなのかも知れないんだけれどもね、センチネルアジアのプロバイダがですね、如何にも少ないじゃないかと。もっともっと沢山、此れこそ、タダマスマスベンツ（？）じゃないですか。其れが沢山有った方が良いじゃないですか。だから、一所懸命 JAXA が汗かいてね、そこら中駆けずり回って、センチネルアジアにもチャンとデジグネートしといて下さいねと。チャンと頼んだら、チャンと、パッとくれるようして下さいよと言って、話を進めてみれば良いんじゃないですかと。

JAXA 梶井：まあ、あの、そう云うお考えもご尤もだと思うんですけど、一寸センチネルアジアの立ち上がりは、元々比較的此の地域のインターネットでデータのやり取りをすると云うネットワークを基にこう発展してきて、しかも、其処の或る程度、ジョイントプロジェクトチームを作った、コンセンサスベースで来ておりますので、今、

青江：サービスする側は多ければ多い方が良いんじゃないんですかって。

JAXA 梶井：はい。まあ、其れはそうなんですが、一寸中々国際的には色んな此れに類した構想とかシステムが御座いまして、一件グローバルに一つのワンシステムって云う風に、今動いてる訳ではないんではないんですけども。其れは中々データポリシーとかですね、色んな制約が御座いまして、まあ此れはあくまでもボランタリーベースの、こう云う困った時のデータを提供すると云うスキームなんですけども、

森尾：今仰ってるのは、其の貰ったけど、其のデータのフォーマットとか何かそう云うものが統一されてないとか、直ぐには使えないとか、そう云う事情が有るんですか。

JAXA 梶井：勿論そう云う面も御座いますけど、先ず其のデータを提供すると云う時のやり方ですね。例えば災害チャーターもセンチネルアジアと比べると比較的かなり大きな災害で無いと発動し難いとかですね、そんな、やっぱり其の救済と云う支援システムの方にも一寸、色んな特徴が御座いまして、一挙に其の中でいきなりグローバルシステムにポンと行くと云う状況にはなってないんですが。

青江：あんまり大きなグローバルシステムとか何とかね、その、非常にこう、チャンと立派なシステムのようなものに直ぐ持って

行ったら同ですかと云う様な事を言っとる心算もないんですよ。要は折角撮れて居るんだから、アジアの上も飛んで回っとる訳だから、それで頼んだら、何もこう、首を振ってくれと迄は言わないけど、たまたま撮れとるんだったらですね、それはスッと出して貰える様に、話を付けといたらどうですかと云った程度なんですよね。

JAXA 梶井：まあ、其の様なお考えも勿論、あのー。

青江：だから其処に、そう云った処に汗をかくとセンチネルアジアと云うもののバリューが上がって、ええと、ネエ、其れよりやっぱり、APRSAF の方が良いねと云う事になるんじゃないかと。

JAXA 梶井：まあ、あの、今後そう云うのも、アジアだけでなくて、国連の COPUOS とか色々有りますので、考えて行きたいと思います。

青江：大システムを作ろうなんてあんまり。出来る事を、直ぐにでも出来る事をチャンとやる。

松尾委員長：まあ、くれと言ったら直ぐくれるかどうかと云う話も、今直ぐ出来る事なのかどうかも分からないと、検討してみたいと。

JAXA 梶井：そうですね。まあ、中々データを出すと云うのも、インドと韓国と議論した時も、最初は結構抵抗があるんですね。で、此れはようやく、ボランタリーベースで、災害の時だけ出すんだよと云う事で、

青江：勿論災害の時だけなんで。

松尾委員長：まあ、だから、汗をかいてと云うのは其処の部分を言ってるから、検討してみて下さい。

JAXA 梶井：はい、それはじゃあ、色んな機会で、そう云う処を探って行きたいと思います。

青江：それからね、もう一点ね、ESCAP が音頭を取ってくれて、あの、まあ、言ってみればコンタクトポイントですね、各国の言ってみれば防災当局でしょうね、多分。其処のコンタクトポイントを提示をして下さいと、こう云う。その提示をしてもろうた其のポイントは、センチネルアジアと云う枠組が其れを使うとでも言いましょうかね、そう云う脈絡にんっとんだと理解して良いのかな。

JAXA 梶井：今のセンチネルアジアは、勿論、宇宙機関が中心になって作ってるんですけど、其れ以外に勿論防災機関も参加してます。唯、防災機関てのは比較的実施機関ですので、中々その政府の、何て言うんですかね、高いレベルに辿り着かないもどかしさみたいなのが時々御座いまして、

青江：防災機関が、所謂、一番上の方とは距離がある。

JAXA 梶井：はい。だから其処を此の ESCAP が、まあ、此れは国連機関なんで、上の方からトップダウンで入ってけると云う特長が御座いますので、其れを使って呼びかけてもらってると云うのが今回の仕組みです。

青江：ですよね。だから、ESCAP に登録しますよね。だから、其れがです、其の登録された各ポイントがですね、当然の事ながらセンチネルアジアは大いに使う、其のポイントを。と云う風に理解して委員ですかって云う。

JAXA 梶井：そうして欲しいと云う事で、今、働きかけてる処です。

青江：と云うことですね。今迄のセンチネルアジアってのはどうしても宇宙機関だったと、

JAXA 梶井：宇宙機関或いは実施機関としての防災機関レベルと云うとこで。

青江：ウン。だから、あの、こう云うものはドンドン取り込んでとでも言いましょうかね、其のセンチネルアジア乃至 APRSAF の様な場に此れを取り込む、事実上ね。と云う風にするとうんと充実するんだと思いますね。

JAXA 梶井：まあ、そう云う処を ESCAP との連携に期待して居るとこで御座います。

池上：色々議論してて良く判らなくなったんですけれど、まあ国連ですと此の程度かなと云うのは分かったんだけど、唯、共催 JAXA って云う風になってますよね。此れどう云う事なんですか。それともう一つは、日本は何を主張されたの？海外が色々言ってるムニャムニャ。

JAXA 梶井：ああ、あの、カントリーレポートの中でですね。

池上：ええ、ええ。一つその JAXA 共催って言うこと。

JAXA 梶井：JAXA 共催って云うのは、まあ、JAXA が実質資金的な支援をしてると云う事です。

池上：ああそう。そう云う事なんだ。

JAXA 梶井：ええ、人的資金的な支援をしていると。

池上：で、狙いとしては先程の話し、センチネルアジアを持って来る。

JAXA 梶井：もう一寸その、今、あの、青江委員仰った様な形で、外交レベルから、政府間レベルから入ってける様な形と云う事で御座います。

池上：でも、一寸細かい話になるけど、前回韓国が情報提供しますって言ったけど、肝心の韓国が参加してないですよ。

JAXA 梶井：今回は、一寸、残念ながら声は掛けているんですけど、

池上：で、で、日本としては何を主張するの。

JAXA 梶井：日本としてはですね、まあ、日本としての簡単なカントリーレポートも有ったんで、一寸簡単過ぎて省いてるんですが、実質的には日本のプレゼンテーションは、センチネルアジアをかなり詳細に、時間を貰って紹介出来たと云う事で、まあ、ビデオなんかも使いまして、かなり強烈に印象付けた事は出来たろうなと云う風に思ってます。

森尾：以前青江さんからもあったかも知れませんけど、こう云うあれに、WINDS とかですね、場合によってはきく 8 号でも良いんですけど、もっと活用するって云う事は考えてますか。

JAXA 梶井：今、あのー、センチネルアジアにつきましてはステップ 2 と云う、まあ、初期の構想が完了してますので、まあ、其れをより充実するという事で、WINDS を使って、例えば大量データの伝送が必要な処に使ってこうとかですね、そう云う計画を立てて進めているとこで御座います。唯、此処のシンポジウムの中でですね、そう云う話をしても中々そう云うものを即理解できる人たちは居ないんで、あの、かなりプリミティブな宇宙利用と云う形から今アプローチしてる所です。

森尾：あの、何て云うか、大量のデータって云う事にあんまり拘ら

なくても、夫々の国によっては国内のインターネット網の整備状況も随分違うと思うんで、そう云う処を補完するって云う意味で、衛星通信としての WINDS の活用でも考えられると。

JAXA 梶井：其れは今、ステップ 2 の中で、所謂ディジタルディバイドの地域へのサービスと云う事で考えて居ります。

青江：WINDS の利用実験の中に、海外にジョインして貰う中に入ってますよね、其れがね。

松尾委員長：まあ、あの、センチネルアジアの強化に向けて着々と、こう進んでるような印象を受けます。特に此の結果概要の辺りも大変具体的で分かり易いと思います。唯、此の 2 頁目の目的のとこに①②③ってあるでしょう。一寸私今時差ぼけのせいもあるんだけど、みんな似た様な話で、何がどう違うんだか中々頭に入らないんだけども、一寸何か言ってくれます。1 番目は分かるんですよ、これね。

JAXA 梶井：まあ、情報交換と云う事で御座います。

松尾委員長：センチネルアジアについてね。

JAXA 梶井：はい。2 番目は勧告の中にもありますけど、矢張りその、地域協力のプラットホームってのは、やっぱり、コンタクトポイントと言うんですか、各国の政府レベルのフォーカルポイントと云うのを明確にして、其れを ESCAP に繋いで貰う様な枠組が出来ると云う事を期待してたって云う事で御座います。でまあ、3 番目はセンチネルアジアと云うものを、矢張り良く理解して貰うと云う事ですかね。

松尾委員長：センチネルアジアの話だと思って、

JAXA 梶井：はい、大体あの、そう云う、

松尾委員長：そう云う意味で豪く一般的にネ、宇宙の在り方と云うもの、有用性みたいなものを統一する様に思えちゃうんだけど、そうでもない。

青江：一言で言ったらセンチネルアジアで良いものを、こんな有用なもんですよ、皆さん其処に来て使う様にして下さいと云う会だと。ネ。

JAXA 梶井：はい、其れがあの、JAXA の共催の意図で御座います。唯、一寸、建前上はですね、UNESCAP はセンチネルアジアだけを紹介すると云うのではなくて、やっぱり防災の為にやりましょうと云う事なんで、一寸オブラートに包んだ様な記述が出て来てしまうと云う事です。済みませんでした、一寸説明が稚拙で。

松尾委員長：宜しいですか。

青江：こう云うものをドンドンやって頂いて、お仲間をドンドン増やして貰って[2]。

---

[2] センチネルアジアのユーザーが増えた後で、何を狙っているのかが議論されないので、唯々「ドンドン」「ドンドン」と言われても、其れに乗って良いものか判らない。中国はアジアでの覇権を狙っているが、日本はその様な意図は無いだろう。良いものは良いと云う無邪気な善良は、却って不気味に映るのではないだろうか。